

2023年(令和5年)

第63号

(12月15日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 澤村悦玄
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

日中韓仏教友好交流会議 韓国大会 ～京都教会からも代表者が参加～

11月6～8日、第23次日中韓仏教友好交流会議の韓国大会が4年ぶりにソウル市内のホテルと奉恩寺を会場に行われ、日本・中国・韓国の仏教代表者が集まり、友好的に交流を深めました。京都教会からも中村教会長(当時)をはじめ、渉外部長や支部長代表など10名が参加しました。

6日は祝賀公演が盛大に行われ、三国の仏教者の集結を大変喜んでいました。

7日はメインプログラム開催。奉恩寺における世界平和祈願法会、記念植樹、記念撮影、各国代表の供養が行われ、午後からの国際学術講演会では日中韓仏教交流協議会の常任理事として中村教会長の発表がありました。



中村教会長は「人類社会における相生(共生)のための仏教徒の役割—A I時代における仏教徒の役割—」と題し発言。昨今の技術進歩にふれ、量子コンピュータの発達による車の自動運転、空飛ぶ車の現実化に始まり、チャットGPT(生成A I)の行政利用の有効性や教育現場での弊害を述べた上で、現在では「仏教とA Iの融合」が浄土真宗本願寺派僧侶の熊谷誠慈氏によって研究開発が進められていると紹介。ネット上の仮

想空間に仏教仮想世界「テラバース」を展開し仏教対話型A I「ブッダボット」を登場させ、法句経などの経典を基に約1千パターンの問いと回答をデータ化し、人々の悩みをブッダの教え(智慧)によって解決する取り組みを紹介しました。これらが開発された背景にもふれながら、重要なことは釈尊が後世に託された「令法久住(未来永劫にわたって仏法が伝えられること)」であると強調しました。

さらに道元禅師の道歌を紹介し、釈尊の教えの根幹は突き詰めると「すべては縁起の理法(無常・無我の真理)」であるとし、すべての現象は必要あってこの世に生まれ出たものと解すべきと述べました。

まとめとして、人間が高い倫理性に立ってA Iと二人三脚で生きていく時代だということ、一方で人間の「四苦八苦」はいつの時代にも存在し、人間だけが持つ「共感力」「能動的な感化力」を発揮しながら、仏教者は「人間力」を高め、仏法によって「救われた喜び」を実感してもらえる善縁になれるよう、日々の精進と布教伝道の使命があると結びました。

同行していた渉外部長や支部長代表からは「中村教会長の大役を同じ空間で、お供出来て誇らしく、嬉しい限りです。また、三国の宗教者が共に祈りを捧げ、思いを一つにするのは、見ると聞くどころか実感は凄いものがあり、感無量です」や「お釈迦様の教えを学ぶ三国の仏教者が、一同に平和祈願と法要をする場所は何とも言えない特別な感動が沸きあがります」といった感想が寄せられました。

七五三式典 ～青年部員が集合し温かな式典を支えた～

京都教会少年部・婦人部は11月19日、法座席で七五三の式典を実施しました。

教務部長が導師として、七五三対象12名の名前を読み上げ祈願を行い、その後一人ひとりに千歳飴を手渡しました。教務部長はお祝いの言葉の中で、七五三の由来についてふれ、古くは平安時代から始まったと解説しました。3歳で髪置(かみおき)、5歳で袴着(は

かまぎ)、7歳で帯解き(おびとき)の風習があったとされ、現代のようなスタイルになったのは江戸時代、5代将軍の徳川綱吉ということですが、いつの時代も子を思う親の気持ちや子の成長を願う親の気持ちは変わらないと述べました。

青年部員もさまざまな役割で子供たちのためにお祝いに集合し、温かな式典を催すことができました。

令和5年、私たちは「日々感謝 にこにこ元気に出会いたい ありのままの私から」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧ください。https://rkk-kyoto.jp/ (右のQRコードからご覧頂けます)



第80回「青少年によるクリーン宇治運動」 ～宇城久明社～

宇城久明い社会づくり運動の会(以下、宇城久明社)は、11月26日(日)午前9時から10時30分頃まで「青少年によるクリーン宇治運動」に参加しました。この運動は、青少年によるクリーン宇治運動実行委員会と宇治市教育委員会の主催で毎年行われ、「青少年がクリーン活動を通じて社会参加を行うことにより、社会の一員としての自覚と郷土を愛する心を培うこと」を目的とした活動で、今年度の事業計画で予定していたものでした。

午前9時に宇治神社に集合した12名の会員は神社宮司で宇城久明社の花房会長から「楽しみながら心もクリーンになりましょう」との言葉を受け、はじめに、塔の島での開会式に参加。その後、宇治橋から塔の島

周辺、吊り橋までの宇治川兩岸及び大吉山周辺クリーン活動を行いました。活動後は、ごみの分別とお茶やパンなどを配布し終了しました。



中村教会長退任式及び感謝の集い ～笑いあり涙あり～

中村教会長退任式及び感謝の集いが11月26日、会員約300名が参加し、行われました。



1部式典は法座席で行われ、教団を代表し佐藤常務理事(前京都教会長)も駆けつけ、あいさつを述べま

した。その後、会員代表の感謝のことは、国会議員のあいさつと続き、中村教会長が任期最後のあいさつを述べました。その中で、自身のご法の先輩の言葉を引用し、「社会の雑巾たれ」を披露。自分自身も一布教者として、そのような人格者を目指していきたいとしました。

2部は体育館にて青年部主催で行われ、様々なレクリエーションがありました。マツケンザンバでは笑いあり、感謝のことはや花束贈呈では涙し、楽しく、ありがたく、明るい感謝の集いとなりました。

東教会長 就任式 ～京都教会発足64周年、新道場建立30周年式典～

12月3日、東教会長の就任式ならびに、京都教会発足64周年、新道場建立30周年の式典が法座席で行われ、多くの会員が参集しました。



就任式では、中村佼成学園理事長が東教会長の紹介と共に、2人が本部広報課時代に一緒に奉職していたことを披露しました。祝電披露、国会議員のあいさつと続き、東教会長が登壇。自身の生い立ちや10代後半の生死をさまよった様子を述懐し、信仰に入るき

かけを述べました。

その後、司会者が交代し、新道場建立30周年式典を開式。地鎮祭や上棟式など当時の様子が放映されると、法座席からは懐かしむ声も聞かれました。また30周年を記念して各支部で取り組んだ行事を報告し、会場からは大きな拍手が送られました。

東教会長と中村理事長の対談のコーナーに移ると、建立当時に赴任していた青嶋教会長からの手紙を披露。庭野開祖の京都教会新道場建設への強い思い、地元住民との話し合いや布教の苦労など、当時の様子が分かるものでした。東教会長もマスコミ対応などでウェスティン都ホテルとの往復で走り回り、「記憶しているのは流れる風景だけだった」と述べると会場からは笑いもこぼれました。

佐藤元常務理事、中村前教会長、東教会長が30年前からすでに京都の会員と縁があり、今回、東教会長が京都に赴任されたことは、大きなはからいの中にあることを感じた式典でした。